

自動ドア業界のデベロッパ 「困った」をNOと言わずに即解決！ 最高のサービスで迅速に応えるモノづくり

中原製作所

中原製作所（横浜市港北区新吉田町、星野勝徳社長、045・591・6831）は、昭和42年に設立。旋盤・フライス・セーパーなどの切削加工、MIG・TIG溶接、プレス、ベンダーを用いた板金加工を駆使し金属および樹脂による自動ドア関連部品（主にハンガーなど）を製造・開発し、製品として組立、出荷・販売まで行っている。

同社の強みは、月に数百件近くの電話相談に対応し、「お客様の「困った」を、NOとは言わずに即解決する」点。自動ドアの知識と経験から電話の内容で問題を把握するレスポンスの早さは日本一と自負する。

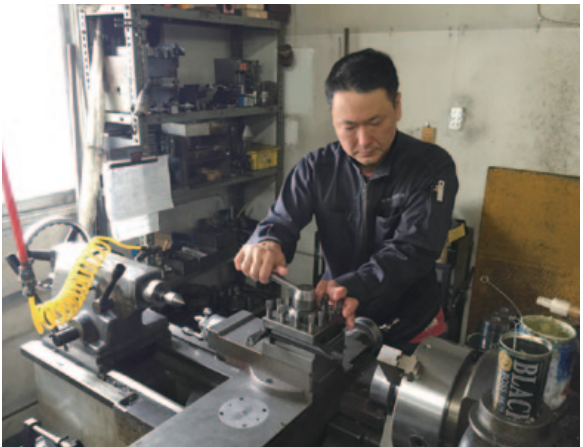
星野現社長は、製版メーカーで営業の経験を積み、31歳で先代社長である父徳次郎氏の経営する同社に転職した。サラリーマン時代の営業経験と、「町工場のDNA」がうまく融合してさまざまなイノ

ベーションを生み出している。

「町工場の営業マン」をめざす社長は、再開発が進む都心部を中心に自動ドアの需要が高まりつつある中、多様なニーズが生まれる現場の声を常に聞き続けている。永年自動ドアを製造してきた実績や父から受け継いだノウハウと、社長自身の営業力を融合し、各現場で使われる自動ドア部品を最適なカタチに製造することを提案している。

その中で、自動ドア下部のガイドレールの溝を埋め込むバリアフリー商品を大手自動ドアメーカーと共同で開発し、意匠登録を実現した。ドアと床の隙間を埋め、ヒールや杖が引っかかるないように、また、店内へのゴミの侵入を防ぐ効果がある商品で、すべての自動ドアの規格に合い、取り付け設置工事も容易にできる。

「中小モノづくり企業としての自信と誇りを」星野社長



■ 同社の開発した自動ドア商品のはめこみ施工例

